

スタンフォード大学—安らぎのキャンパス— 2018-6-29

スタンフォード大学の正門を入ると、フェニックス並木のまっすぐな道路が大学のほぼ中央にある教会まで伸び、フェニックスの木々の奥には、ユーカリの林が広がる。ユーカリはオーストラリア原産の木で、乾燥に強く、香しい匂いを発散する。この緑豊かなキャンパスに、赤い屋根とベージュ色のレンガで造られた3階建ての校舎が点在し、スペイン風の雰囲気である。スタンフォード大学では、教会の近くにあるフーバートタワー以外のすべての校舎は、3階建て以下と規定されているので、緑の多いキャンパスとその中に点在する校舎はよく調和が取れていて、安らいだ気分になれる。

大学のほぼ中央にある教会を囲むように建てられた校舎をめぐる石畳の回廊を歩いていると、スペインかメキシコあたりの古い寺院を訪れているような錯覚に陥る。スタンフォード大学は、校舎を建てる時、その時代の最高の設計と材料とで建てる方針を取っているとので、構内のいろいろの建物は一見の価値がある。

一方、メディカルセンターは、赤屋根ではないが、外観は落ち着いた色のベージュ色のタイルで、近代的な瀟洒な建物である。やはり3階建てであるが、地下1階、2階があり、実質は5階建てである。感心することは、地下1階の居室は、掘り下げられた中庭に面していて、中庭に植えられた木々やその上の空が眺められ、地下1階という感じはしない。人にやさしい造りに感心する。地下2階は、動物室や、機械室で人間が住むようには出来ていなかった。

一方、解剖学と私の属していた微生物学の2部門は、このメディカルセンターの東にあった。その近くにはスタンフォード家の墓所があり、特に緑の多い所である。この2部門の建物は、上に述べた当代一の設計のもとに建てられたものかどうかやや疑わしい。蒲鉾状のずんぐりした100メートルほど一直線に延びる2階建てである。昔は馬小屋だったという話も聞いたことがある。でも、頑丈そうな感じはする。事実、1906年のサンフランシスコ大地震（マグニチュード7.8）の折りも、この建物だけはびくともしなかったとい

うことである。安全な建物なのだ。

私は瀟洒なメディカルセンター中に、自分の研究室がなかったことを残念に思う一方、
葛が屋根まで伸びあがったこの無骨な古めかしい建物も人にやさしいものではないかと思
いながら青春の日々を過ごした。